

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、会員については会員、寿都町長については寿都町長、NUMO職員についてはNUMO、ファシリテーターについてはファシリテーターと記載しています。
- ・ NUMOの職員、ファシリテーターの方の氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

### 寿都町 対話の場（第11回）会議録

1. 日時：2022年7月21日（木）午後6時30分から午後8時23分
2. 場所：寿都町総合文化センター ウイズコム
3. 会議録

#### （1）開会・挨拶

##### ○事務局（司会）

皆さん、こんばんは。定刻になりましたので、ただ今より、「寿都町対話の場」を開催いたします。本日は13名、ご出席を賜っております。いつも誠にありがとうございます。

それでは早速、会を進めてまいりたいと思いますが、まず、事務局より3点、ご報告申し上げます。

まず1つ目でございますが、これは視察について、でございます。視察につきましては、5月から6月にかけて計3回、幌延町の深地層研究センターをご視察いただいております。3回で計9名、ご視察をいただいておりますことをご報告申し上げます。今、“3回”と申し上げましたが、実は6月にもう1回、予定していたのですが、もしかしてお聞き及びの方もいらっしゃるかもしれませんが、寿都を出発して新千歳空港に向かう高速道路で、事故の大渋滞に巻き込まれて、先に進めなくなって途中で中断したというのが1回ございました。その時にご参加された方につきましては、その時はご視察いただけなくて本当に申し訳なかったということなんです。また改めて調整させていただいている日程でご視察いただければと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。また、昨年12月にご参加された方、また、まだ幌延をご覧になっていただけていない方もいらっしゃるのですが、また今後いろいろと計画していきたいと思うので、その際には、是非、ご覧になっていただけたらなと思っています。本日は一巡視察を終えまして、一連のいろんなものを見聞きして、いろんな思いがあると思うのですが、それを意見交換、語り合っていただく場を、この後予定してございますので、是非、よろしくお願ひ

したいと思います。昨年12月にご覧になった方は結構時間が経ってしまっていますし、まだご覧になっていただけていない方は「どんな所なんだろう？」というのがあると思うのですが、まず冒頭に、●●さんにいろいろと編集いただきました動画が5分程度ございまして、それを皆さんに見ていただいて、思い出していただいたり、イメージを膨らませていただいて、意見交換などをしていただけたらと思っております。それから、視察に行っている間も、「次は六ヶ所に行きたい」というような話を多々いただいております。六ヶ所につきましては、もうすでに先方様と日程の調整などを進めており、今の状態でいくと、秋には六ヶ所の視察をご案内できるかと思っております。また日程が詳しく決まりましたら、日程調整のご相談をさせていただきたいと思っておりますので、六ヶ所も是非、よろしくお願ひしたいと思ひます。加えまして、7月1日に勉強会の参加メンバーの方々に泊原子力発電所をご視察いただひており、ご視察いただひた方、4名いらっしゃったのですが、「見ることができ非常に良い機会だった」という感想をいただひており、泊原子力発電所が「近い位置にあるのだがなかなか実物を見ることのできない」という話もいただきましたので、泊原子力発電所も視察先に含めながら、秋口に向かつて調整していきたくと思ひておりますので、こちらのほうも併せて、是非、よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

2点目は、パンフレットの件でござひます。実物がこちらになります。いろいろとご意見を頂きながら、今、この形になって出来上がったものですが、これを7月2日土曜日に、まず最初の町の中でのお配りということで、新聞に折込みをさせていただひております。新聞の折込みということですので、全戸に届いてるということにはなつてござひませんが、これは今後、町の皆さんとお会ひする機会ですとか、そういったところを捉えまして、地道に手渡し、お配りしていくことを続けてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。何かお気づきの点などあれば、我々交流センターのスタッフに「ここ、こうしたらいいんじゃないか」ということで、いろいろご意見いただければと思ひてござひます。また、あちらをご覧になっていただけますでしょうか。「このパンフレットが非常に分かりやすいんじゃないか、あるいは馴染みやすいんじゃないか」ということで、いろんなイベントなどの機会に、例えば、説明で使う時にこういったボードで掲げたほうが分かりやすいんじゃないか、ということ、これは実は、●●さんからアイデアを頂いたものでござひます。また、もうちょっとサイズを大きくして、とすれば交流センターの壁に掲げるとか、そういったこともできるんじゃないかということ、まずはサンプルとしてボードを作つていただひて、具体的なご提案まで頂ひております。ありがとうございました。我々も非常にこれいいな、是非、こういった物を活用できるようにやっていきたいな、と思ひてござひますので、実現に向けて●●さん、またいろいろとご相談させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。パンフレットにつきましては、北海道新聞さんにも記事掲載されたということもあり、町の中だけではなく町の外の方々からも「これが欲しい」ということで問い合わせなどがあり、郵送させていただひたりということ、かなり反響を広くいただひているところでござひます。ありがとうございました。パンフレットの件でござひました。

次に3点目でございます。前回の対話の場におきまして、エネルギー政策についての質問に対して後日回答とさせていただいたものについてのご紹介でございます。回答につきましては、既にご自宅にお伺いさせていただき、回答申し上げますが、どんなご質問があったのか、どのような回答したのか、ということでの紹介をさせていただきたいと思っております。

●●さんから頂いたご質問2つでございました。まず最初は、電源構成はパーセントで表示されて、これは資料上ですね、全体でどれくらいのエネルギーが必要なのか？というご質問でした。こちらの回答としまして「総発電電力ベースで2019年度の確定値で1兆240億kwh、2030年度の見込み値で9,340億kwhとなる」ということでの回答を申し上げます。2つ目の質問は、2020年度の再生可能エネルギーの電源構成は？ということでした。これはパーセンテージを回答しておりますが、分かりにくいので、今スライドに投影させていただいておりますこちらの表をご覧ください。真ん中の欄が2020年度のパーセントの構成になってございます。それぞれ水力から石油まで、こういった形の構成。これが2030年度になるとこうなります、ということで変遷がこの表でまとめられているものになってございます。●●さん、こんな感じでもよろしいでしょうか？ありがとうございました。

それからもう1点、これは質問というよりはご意見ということだと思いますが、今日ご欠席の●●さんからいただいたものです。内容としましては「寿都の町でも風力発電をやっておりますけれども、発電しているものについて地産地消できないのか」というご意見と理解しております。

「再生可能なエネルギーを増やすためには地産地消、発電したものを地域で使えるということで、制度的に国が取り組んでいく必要があるんじゃないか」というご意見だったということです。ただ、私も前回横で聞いておりまして、実際に福島で地産地消をやっていたなということだったり、九州のほうでもそういうことをやっている事業者がいるなという話は聞いたことがあったり、ということだったので、確認させていただきました。寿都町の場合は、あくまでも設備上の事情ということで、一般に地域に供給する供給線の設備というよりは、売電専用の電線の構成になっている、ということですので、特に制度上の制約や問題ではないということ、この場では確認した結果としてお伝えさせていただきたいと思っております。

以上3点がご質問ご意見などへの回答となります。

以上が事務局からのご報告となります。ありがとうございました。

それでは続きまして、文献調査の進捗状況につきまして、こちら NUMO より説明いただきます。それではよろしく願いいたします。

## (2) 文献調査の進捗状況の説明

### ○NUMO

こんばんは。NUMO の技術部の兵藤と申します。よろしく願いいたします。

文献調査の進捗状況として報告させていただきます。

大きく2つです。3月に文献データこれぐらい集めています、とおおよその数を説明させてい

いただきました。その具体的な名前リストを作りましたので、その説明をさせていただきます。それが1つ目です。もう1つが3月の時から大体収集は終わりました、文献データに基づく評価というのに入ってきます、ということをお願いしましたが、その進め方について説明をさせていただきます。

最初に、リストについてです。3月に説明させていただきましたのが、こちらのスライドになります。こちらはおおよその数ということで、火山とか断層とか項目の中で重複も含んだ形ですが、数として大体火山で180、断層で200程度、こういった数の説明をさせていただいております。もうちょっと言いますと、寿都町、神恵内合わせた数になっております。共通のものがかなりございますので、こういったことを説明させていただいております。こちらを具体的な名前を整理してリストにしました。

この後、リストそのものを説明させていただきますけども、重複をなくしまして、数としては761の数になっております。先程も申し上げましたが、重複を除いて、ダブリがないような形でリスト化をさせていただいております。収集が大体終わりました、それから評価に入って、今評価を進めておりますが、評価に入ってから若干追加したものも含んだ形になっております。大体幅広く収集しましたので、こういったものかと考えておりますが、今後も不足がありましたら追加で収集していくものも出てくるということになります。最終的に報告書の中では、集めた文献データの中で評価に使ったものを引用文献として報告書の最後のほうにリストとして示しますので、数としては、そこから少し減っていくような形になると考えられます。それではWordのリスト、お手元にA4縦で、ちょっと字が小さいんですけども2列ですね、最初の2枚は鏡に、説明となっています。こういった説明がございまして、761という説明がしてありまして、下のほうに具体的に並べています。著者名、発表年、タイトル、雑誌名とか、こういった並べた形にしております。申し訳ないんですけども、英文も含みますので、こういった場合、慣例としてアルファベット順に並べた形になっています。参考のために、アルファベットと五十音の対応表もつけさせていただきます。

具体的にはどうなっているかと言いますと、ちょっと字が小さいのですが、こういった形で1ページの中に2列並べたような形で、これが合計として761という数になっております。ページ数にして27ページぐらい最後のほうまでずっと続きます。画面上で赤字で示していますが、お手元はすみません、赤字にはなっていないんですけども、赤字で示しているのは、3月の説明の中で寿都町ですと「黒松内断層帯があります」とか、「段丘面がこれぐらいの高さです」という主だった情報をご説明させていただいたんですけども、その根拠となる文献、出典をそこに合わせて下のほうに書いていたのですが、それが「こういうところにちゃんと含まれてます」という形で今、赤字で示した形になっています。鉱産誌ですと、寿都の鉱山関係がこちらの引用文献として3月の資料には出してございました。ずっと送っていただくと、少しずつ赤字も出てくるような形になります。こちらですと、ここは断層の関係です。こちら断層の関係です。こちらは段丘の関係です。こちらは未固結、ボーリングの結果があって、未固結がどれぐらいの厚さがあるかといったことの説明に使った文献です。こちらは地温の関係です。こちらは鉱物資源です。だいぶ飛んでいきまして、最後のほうに地質図を説明させていただきましたが、その中の一つが

50,000分の1の寿都という地質図がこちらに入っております。最後の27ページになりますが、寿都町からご提供いただきました寿都鉱山の坑道図もこちらに記載した形になっております。こういったリストをまとめたということでございます。

続きまして2つ目の「文献・データに基づく評価の進め方」について説明させていただきます。同じく3月の説明の中で文献データを収集して情報を整理しました、それを基にして最終処分法で定めた要件に照らした評価、それから技術的観点からの検討、経済社会的観点からの検討を進めていきます、というご説明をさせていただきました。その後4月に国の最終処分関係について議論されている審議会というのが開かれておりまして、その中で文献調査に関して NUMO から説明をさせていただき、委員の先生方にご意見を頂いたということがございます。具体的には、上のほうに書いていますように、文献調査の結果に対する品質及び信頼性の向上や透明性確保の観点から、収集それから評価の考え方についても専門家の意見を伺っていきたいということを説明させていただいております。それを受け委員の先生からは、専門家による丁寧な評価が重要、それから3つ目のところで、NUMO として考え方をまとめ専門家で評価していくことが重要、それから評価の中では2番目になりますけれども、文献調査ですと現地調査をやるわけではありせんので、文献調査ではっきりさせられることには限りがあるので、そこに留意が必要といったご意見も頂いています。それから、こういった議論の成果については、住民の方々にとって有益な材料となるような形で提供されることが重要というご意見を頂いております。審議会ですが簡単にご説明しますと、名前は放射性廃棄物ワーキンググループと言いまして、経済産業省の審議会の中にはエネルギー、それから原子力関係を審議されています総合資源エネルギー調査会というのがございまして、その中の作業部会として放射性廃棄物ワーキンググループというのがございまして、こちらが4月7日に第36回がございまして、その中でこういった議論をいただいたということでございます。こういった議論を受けまして、文献データに基づく評価の進め方を、イメージ図ですが示してみました。下のほうに絵がありますけれども、上のほうの流れと下のほうの流れがございまして。上のほうは先程からも申し上げていますが、当然ですけれども、収集して抽出・整理した情報をもとに、情報の読み解き（学術的理解）と整理、評価の前段階の準備みたいなことになるのですが、それを進めていくのですが、それと並行して、下のほうにあります、評価の考え方、先ほど「文献段階ですと限りがある」というご意見がありましたので、枕詞として、文献調査段階の評価の考え方、こちらをまとめていくと。策定していったら、それで右下のほうにあります、国の審議会のほうにお諮りして意見を聴いていくということを考えております。その結果を、情報を読み解き整理したもの、こちらに考え方を当てはめていったら最終的な評価につながるということを考えております。読み解き（学術的理解）と整理、と書いてありますけれども、具体的には文献データを収集して整理しておりますけれども、文献データそれぞれは、地層処分のために調査、論文を書いていらっしゃるというわけではなくて、それぞれ断層、火山とか、それについて「この場所でこういったことが分かった」という個別の報告が多くされておりますので、まずは個別の報告につきまして、どういう調べ方をしたのか。どういう考え方でまとめているのか、というのを分析して、それからどれぐらいのことが言えるのか、それがどれぐらい確か

らしいのか、というのを分析します。それをまとめて組み立て、その断層、(火山というのは、例えば寿都町にはないんですね) 3月に黒松内の断層のお話をしましたけども、寿都町内での黒松内断層というのは具体的にはどういうものかというところまで理解・整理を進めて、それで評価に持っていく、というようなプロセスのことを説明しております。口頭で申し上げて申し訳ないんですけども、そういったことをやっております。ちなみに、これは基本的な、基礎的な地質の学術的な分析になりますので、火山とか断層とか分野ごとに有識者の先生に、必要に応じて意見を聞いて、知見が足りてるか、文献がそれで十分か、といったようなことも併せて聞くことをやっております。それから下のほうの評価の考え方でですけども、評価の考え方を策定するにあたりましては、ここに書いてますように、最終処分法で定められた要件、それからマップの考え方、それから3番目ですけども、これはご存知かと思えますけども、原子力規制委員会のほうで、こういう考え方をしたらいいんじゃないか、というようなことを議論されていますので、そちらを基にして考えていくということにしております。

最終処分法で定められた要件と言いますのは、3月の資料にもちょっと書いていましたけども、地層の著しい変動、鉱物資源の記録がないこと、といった法律そのものでして、これがまずは基本としてあります。その他にマップ策定時の考え方。それから規制委員会の考え方ということになります。マップの考え方と言いますのは、科学的特性マップは、全国を4色に、オレンジやグリーンに塗った絵がありまして、それはどういうふうに塗り分けるかという基準を基に書かれているんですけども、その前に、オレンジは断層として好ましくない範囲、それから火山として好ましくない範囲、例えば、火山は15km、断層は長さの100分の1と決められているんですけども、その前に好ましくない範囲というのは具体的にはどういうものかというのを、字が小さいんですけども、地層処分技術ワーキンググループ、これも国の審議会の一つですけども、基本的な検討をまずされまして、それを受けてマップに書くにはこうしたらいい、というような議論がされていますので、その基のところ、好ましくない範囲はこう考えればいいという議論が報告書に取りまとめられていますので、それを基にして文献調査のときに、避けるべきはどのような所かというのを考えていきたいと思っています。それから規制委員会ですけども、こちらは4月の段階ではまだ検討中でありまして、6月に案が出され、今は一般からの意見の公募が終わり、今最終の取りまとめの時期です。ですので、もう少ししたら確定したものが出るかと思えます。中身としましては、この表にありますように、断層、火山、侵食、鉱物資源こういった項目に対して、こういったことを考慮すべきです、というような事項が並べられておりますので、こちらにも考えに入れて、文献調査でどういうふうに評価をしていったらいいかというのをまとめていきたいと思っています。原子力規制委員会の考慮されるべき事項につきましては、表の上のほうに「それぞれの時点で得られている情報に基づき」ということが書いてあります。これはどういうことかと言いますと、処分地選定調査は文献調査だけではなく、その後に概要調査、精密調査と三段階で段階的に進めていくものですが、先程の規制委員会の「考慮されるべき事項」というのは、文献調査だけではなく処分地選定調査全体にわたって考えて考慮してください、という事項になっています。ですので、考慮すべき事項はあるのですが、それぞれの段階、文献ですと文献とかデータとか情報が限られていますので、それを踏まえたうえで考慮してください、という

説明になっております。こういう点を踏まえ、原子力規制委員会の考慮されるべき事項も中に入れて評価の考え方を作っていきたいと考えております。

もちろん調査の進捗状況についても、今後こちらの対話の場を通じて説明させていただきますが、同じように評価の考え方についての審議会での議論の状況につきましてもご説明させていただき意見を伺いながら進めていきたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

#### ○事務局（司会）

ありがとうございました。ただ今説明いただきました文献調査の進捗状況につきまして、ご質問などございましたら、よろしくお願ひいたします。皆さん、いかがでしょうか？●●さん、お願ひいたします。

#### ○会員

文献調査の進捗につきましては、今日も、また、今までも報告いただいておりますが、このように報告していただければ、大変ありがたいです。この後、仮に、概要調査、精密調査、あと最終的な地層処分場建設に至るとして、それぞれのステップにおいて、町にどのような、特に経済的な影響があるのかということ、ある程度知っておきたいと思うんですけど、そのような分析は実際されているのかどうかということのお尋ねです。2点目ですけれども、8ページ目にあります一番下のほうですけれど、地域の住民の方々にとって有益な材料となるような形で提供されることが重要であると、ここのところをもうちょっと説明していただければありがたいと思います。

#### ○NUMO

ありがとうございます。最初の点ですけれども、調査によってどういう経済的な効果があるのか、その細かいところはたぶん今まであまりやられていないと思うのですが、実際やることは概要調査ですと、かなり深いボーリング、数100メートル以上のボーリング、それから物理探査と言いまして、地下に電磁波あるいは地震波を与えて跳ね返ってくるのを記録、受信して地下の情報や状況を調べるといったことをやります。それから精密調査になりますと、地下に坑道、小さなトンネルを掘って、それで地下の状況を調べると。ある程度地下の施設3km×3kmとか言いますが、それをある程度網羅するぐらいの坑道を掘りますので、しかも深い所、数百メートルの、そういった建設工事を伴いますので、精密になると比較的作業量というかそれは大きなものになると思います。なので、波及効果と言いますか、ボーリング、物理探査より以上に、もう少し効果というのは大きくなるんじゃないかと思っています。

それから2つ目の、こちらは非常に地質の専門的な内容になることが考えられますので、その成果について、すみません、こちら委員の方のご意見なので私の解釈も入るかと思いますが、非常に地質の専門的な話になる可能性もありますので、それをこちらに伝える際には分かりやすいようにまずは噛み砕いて、それから委員の皆さんの判断といたしますか、考えの参考になるような形で提供しなさい、ということだと思っております。

○事務局（司会）

●●さん、よろしいでしょうか？

○会員

1 番目の質問は、経済的な影響といますか、そういったこと、できれば概要調査に行ったら、あるいは精密に行ったらとか、そういったようなことを踏まえて、具体的に数値とは言いませんけども、そういった影響がある程度分かれば進めやすいんじゃないかなということ。それと、2 点目の質問の部分で、住民にとって有益な材料という、有益な材料というのは、概要調査に進むことに住民が納得できるという、そういうような意味なんではないでしょうか？

○NUMO

議論の中身としましては、技術的それから地質的な内容になりますので、より理解を深められるというような意味合いでおっしゃっているんだと思います。

○事務局（司会）

ありがとうございました。他にご質問などございますでしょうか？ ●●さん、お願いします。

○会員

NUMO に質問ですけど、文献調査の終了は2年と聞いていたんで、秋にも終了すると思ってました。ただ、説明を伺った限りでは、まだまだ終了できないような感触を持ったのですが、文献調査の終了期間はいつぐらいになるのでしょうか？

○NUMO

ありがとうございます。従来からも目安として2年程度ということは申し上げておりますけども、初めてということもあり、それから地質の状況といったものは個別個別で違ってきますので、詳細にこれぐらいのスケジュールというのはなかなか言いづらいところではあります。

○会員

それも踏まえて、住民投票もあるんですけど、それはいつぐらいに予定されているとか知りたいなと思ひまして。

○寿都町長

いきなり住民投票という質問なんですけども、今の文献調査の状況も、今日の対話の場にいらっしゃる皆さん、また、別な勉強会に出席している皆さんと、どこまで理解が進んだか、各々違うと思うんですね。そして、「住民投票する」ということになると、ほとんどまだ知識が、この間パンフレットをお配りしましたがけれども、あのパンフレットだけで皆さんの知識が増すのかどうかということになると、相当難しいのかな、と私は思っています。もっともっと幅広く、

少人数であろうが、ある程度大人数でもできる説明会だとか、もっと会を増やして、皆さんにある程度行き届いた中で、このぐらいまで行くと、皆さん自分の判断で「前に進んでいくか」「進まないほうがいいのか」判断できるんじゃないかと思うんですね。だから、今の段階では、まだ私の口から「いつ住民投票します」ということはお答えできない。私は当初から「全国的な議論を広げていきましょう」と、ところがその後、神恵内しか手が挙がっていない。ですから、もっともっと全国的に手が挙がるように国としても、NUMOにしても、電力会社の皆さんにしても、最終処分が決まらなかったら困るわけですから、もっとやっぱり積極的に、皆さんの今抱えている責任者が各自治体をお願いをして、お願いをしたからそこが決まるわけじゃありませんけどね、やっぱり最低でも10箇所ぐらい調査をして、調査イコールまた勉強ですよ、その地域地域で。そういう雰囲気は日本全体に広がることによって、寿都の住民の皆さんも「あっちこっちで勉強会始まったのなら、我々も案内来たら勉強しに行こうか」という雰囲気にもなります。そうしたことが皆さんに行き届いた中で、住民投票を私は進めていきたいと考えておりますので、もうちょっと時間がかかるんじゃないかなと思います。その点、今日ご参加の皆さんもご理解願いたいと思います。

○事務局（司会）

ありがとうございました。●●さん、いかがですか？ 大丈夫ですか？

○会員

分かりました。

○事務局（司会）

ありがとうございます。他にご質問などいかがでしょうか？大丈夫ですかね。それでは、NUMOからの文献調査の進捗状況についての説明でしたが、ここで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

それではこの後、休憩をはさみ、意見交換の場に入りたいと思います。現在7時10分としまして、10分間休憩したいと思いますので、7時20分に再度お集まりいただければと思います。

大変申し訳ありませんが、この休憩時間中にマスコミ各社の皆さま、ご退出をよろしく願います。それでは休憩に入りたいと思います。中継は一旦ここまでとなります。ありがとうございます。

< (3) ワークショップ 非公開 >

(4) 振り返り

○事務局（司会）

それでは、これから、竹田先生による振り返りを行います。ここから再び中継となります。所要時間は10分程度ということになります。毎回ちょっと申し上げておりますが、竹田先生から

の振り返りですので、インタビューなどではございませんので、そのところマスコミ各社の皆さま、よろしくお願ひいたします。最後に時間がありましたら、質問の時間も取りたいと思いますので、質問はその時にお願ひしたいと思います。それでは竹田先生よろしくお願ひいたします。

○ファシリテーター

北海道大学の竹田でございます。よろしくお願ひいたします。非公開の部分ですね、皆さんとの議論の部分について報告をさせていただきます。紙としては議題①「文献調査の進捗状況の説明と質疑応答」ですね。ここから向こうです。向こう側がポイントになります。ここは確認ということで読み上げさせていただきます。

「仮に次の段階に進んだ場合、町にどのような経済的影響があるのか」ということのご質問がありまして、「概要調査はポーリング、精密調査は地下の状況を網羅、波及効果が大きいのではないか」ということ。それから「経済的影響について、先の段階まで具体的な数値があると分かりやすいのでは」というようなお話がございました。

それから、「地域の住民の方々にとって有益な材料となる形で提供される」という部分について詳しい説明をお願ひしたいということについては、「地質的な専門的な内容になる可能性はあるが分かりやすく情報提供していく」というご回答でした。

それから「有益な材料があれば次の段階に進みやすいということか」ということについては、「技術的、地質的内容となるので理解を深めていく」というようなご回答。

それから「文献調査は2年と聞いており秋には終了と考えている、実際にはいつ頃終了する見込みなのか」ということについては、「目安として2年ほど、明確なスケジュールは提供しにくい」ということ。

それから「住民投票はいつ頃予定しているか」ということについては、「パンフレットだけでは知識習得は難しい。会合を増やして判断できるようにしていく。最低10箇所くらい候補が出てきたらいいな」というような話がございました。これが文献調査の関係の質疑の記録でございます。

それから議題②「会員間による意見交換」、ここから向こうが非公開の部分ですね。実際に、幌延の深地層研究センター、こちらの視察をしていただいた会員の方が動画を作られました。その動画を見ていただいて、いくつかの質疑をさせていただいたということでございます。まず幌延の施設を見ての感想ですけれども、幌延の町の中での施設をじっくり見たけれども寒かったそうです。人口の割にはいろいろな施設が整っている。風力発電で電源を得ている。農業主体だと補助金が多いとか、JAEAの施設建設前に既にある程度の施設が揃っていたんじゃないか、というようなご感想をいただきました。それから動画内容については、施設の近くにメグミルクの工場があることに驚いた、ということがございました。

それから技術的なところになるんですけれども、300メートルぐらい掘ると、100万年ぐらい前の水があるそうです。ですから、「それが地表に上がってきて生活水を汚染することはあり得るか」というようなご質問がありました。「深い地層から上がってくることも否定できない中で評価している」とか、それに関連して「掘削した当初は水が出る。岩の中の水が染み出してくるが、今はそれも収まり乾いた状態にある」と説明を受けたということについては、「堆積岩は水を通し

にくい。亀裂が走っている所は地下水がある程度出続けることもある」というよう回答がございました。

それから、施設の視察を通じての今後の展開、こういうところを見るべきという意見については、いろいろ頂き、「近々、六ヶ所村訪問予定で商工会の方などと意見交換をする。日本原燃の施設を見学する。今後、六ヶ所村の課長と意見交換を行い、より深掘りした議論を行う」、要するに、一回、六ヶ所村の課長さんからご説明をいただいたり、現地見学・施設見学をしているんですけども、より深掘りをしたいというご発言がございました。

実現については、「六ヶ所村とは調整をしている。少人数グループ活動から広がりを生めるように継続をして行く」という話がありました。

それから意見でございますが、「幌延視察を含め、いろいろ勉強した。実際の地下施設を見学できたのは大変良かった。地下はわりと安全であることが確認できました」というようなご意見とか、「地元の人々にも視察などを勧めている。ぜひ町民が六ヶ所村見学に行けるようにしてほしい。いつ頃行けるようになるんですか」というようなご意見とご質問がございました。それについては「10月中のいくつかの日で調整している。今回は商工会だけですけれども、他の業態の広がりも検討していく」というような回答がありました。

それから、「少人数グループの活動状況」というのは、前回は皆さんに情報提供させていただきましたけれども、「他の分野、商工会だけではなく他の分野ではどうか」ということになると、「具体的に他の業種での検討はしてない。まちづくりの関係者から視察の希望を複数もらっている。今後の広がりを期待している」というよう回答がございました。

それから、これはちょっと視点が違うんですけども、「核のゴミの問題、国にとって大事な問題なのだが、議員や選挙などで話題にされない。寿都、神恵内以外にも関心を持ってもらえるような方法はないでしょうか」というようなご発言がありまして、それについては「関心を持ってもらうところが、まだうまくいってない。オープンな形でやっているが報道もあまりされない、広報に力を入れたい。北海道以外でも手が挙がるようにしたい」、これは国のほうの発言でございました。「シンポジウムや対話の場を設けてきた。寿都町、神恵内以外からも手が挙がるように取り組んでいく」、これは NUMO からの回答でございます。

関連してなのですが、話は戻りますが、「少人数グループの視察、若い人が少ないんだ」というようなご指摘がありまして、例えば、「高校3年生が見学に行くことはできないだろうか」というような若い層への拡大ですね、そこら辺の意見がありました。

それから、全般を通じてのご感想だと思っておりますけど、「情報提供いただいているが、どうしたらいいかまだまとまらないんだよ。こういう方法があるのではと言える段階にはないんだ」というような非常に率直なご意見も頂いています。

最後にその他でございます。重複するところもあるかと思うんですけども、その他の活動として考えていること、ということについてご意見を頂きました。「意見交換、勉強会を進める中で視察希望が出ている。調整中のところもあり、今後広がりを持たせたい」、これは前回と少し重複の点がございます。それから新しい視点としては、原発立地という観点からの情報交換についてということで、「輪を広げるキーとなるのは原発立地地域の人々との対話ではないか。電力会社も

動くべきではないか」というご意見、それに対して会員の皆さんから「原発立地地域の人々との対話活動を進めるべきではないか」というような賛同の意見も得られました。最後の原発立地の地域の情報交換という部分と、それから若い層の部分、それと今、商工会が中心になっていますけれども他の分野にも広げたらいいんじゃないか、という3点が今回の大きなポイントではなかったのかなと思います。

以上、雑ぱくではありますが、報告ということにさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局（司会）

竹田先生、ありがとうございました。お時間ですがまだわずかありますが、これだけは聞いておきたいという何かご質問あればなんですが、いかがですか？ 大丈夫ですか？

それではこれで振り返りを終了したいと思います。ありがとうございました。これで中継は終了となります。

以 上